

平成28年度 関西福祉大学金光藤蔭高等学校 学校評価報告書

1 めざす学校像

建学精神	：我々が天地の大徳によって生かされ、家族をはじめ多くの人々の祈りによって育てられていることの自覚と感謝の念から発して、その自分を大切に、将来世のお役に立つ人間となって、世界真の平和達成と文化の発展のために貢献し、そこに生甲斐と喜びを見出す人でありたいという念願に立って、教育の徹底を期する。	
教育方針	：「学理求道」 確かな学問と豊かな人格を備え、大局観に基づく課題認識を持って、社会に有用たる生き方を求める人材を育成する。その人材を輩出することによって本校としての社会的責任を果たす。	
組織目標	：① 生徒一人ひとりを大切にされた教育内容と進路保障で応える学校	⇒教育
	② 社会の変化や時代の要請に応じて、常に改革・改善し続ける学校	⇒経営
	③ 教職員一人ひとりの高い職業意識と組織力で業務遂行する学校	⇒組織
スローガン	：「学びの場で、夢にチャレンジしよう！」	

2 中期的目標

1 法人理念と教育目標の遡求
（1）法人理念の徹底
2 教育内容の充実改善
（1）コース内容の検証
（2）基本的学力の向上
（3）生徒指導の充実
（4）進路指導の充実
3 学校組織活動の充実発展
（1）学校組織の活性化
（2）組織と業務を通じた人材育成
4 広報募集活動の充実強化
（1）広報募集の強化
5 次の10年を見据えた学校風土の醸成
（1）創立90周年記念事業の実施

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析	
【アンケート】	○生徒 <平成29年2月実施> 授業評価 学校生活全般 昨年度から1・2年生全員に調査した。
	○教職員 <平成29年4月実施>
	①エンカレッジコースを新設し、ITライセンスコースとアートアニメーションコースを独立させ、6コースへの改編に向けて取り組みが計画通り進んでいる。
	②組織改革もおおむね受け入れられている。
【分析】	○生徒アンケートではほとんどの項目で約60%以上の生徒が肯定的な反応を示している。今後も一人一人の生徒を寄り添った、丁寧な教科指導、生活指導を継続していきたい。
学校評価委員会からの意見 <平成29年4月26日開催>	
学校評価委員 ①学識経験者：須田正信氏（大阪人間科学大学教授） ②学校近隣防犯委員：新居見英夫氏 ③本校PTA会長：越本美枝氏	
○教育内容の充実改善について	○学校組織について
①コース内容の検証 4つの特色あるコース設定と共に、それぞれの成果が垣間見える。コースの成功を担う協力校や連携機関とは、今後益々の協働化に向けた努力が必要。【要望】	学校組織の活性化に向けて着実に取り組まれていることや、機能化が図られていることが自己評価で推察される。人材育成に関しては、学校運営の要となるミドルの育成は重要であることから、その意図した取り組みの成果が見られる。【評価】
②基本的学力の向上について 基礎学力充実の為の手だてが生徒たちからの評価として数字に表れている。放課後の特別講習や大学生を活用したアシスタント制は今後も有効。【評価】	○広報活動について 広報活動の強化の取り組みで、オープンスクールの参加者が増えたことが評価できる。また各コースの生徒募集に対しても特色をいかしたアピールに努めている。次の10年を見据えた醸成については、記念誌の編纂等教職員やPTA、同窓会等一体感が感じられる。【評価】
③生徒指導について 不登校を含む学校生活不適應生徒に対して、先生方が生徒の悩みや心に寄り添っている事が生徒のアンケートの数字から読み取れる。入学時から家庭状況や経済的に課題を抱えている生徒が比較的多くいることから、今後も継続的にサポート体制を維持して、学校全体で取り組まれることを望む。【要望】	
④進路指導について 全体の進学率が上昇するなど、進路指導のきめ細かな成果が見られる。【評価】 大学進学や就職など生徒の進路希望に添い、引き続き取り組まれることを望む。【要望】	

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
法人理念と教育目標の遡求	(1)法人理念の徹底 ア 本部参拝の充実 イ 心の教育を意識 ウ 校章の変更	(1)法人理念の徹底 ア 毎年実施の学校行事として一昨年度から位置付けた。その充実を目指す。 イ 式・行事での講話、学年・学級での指導、各種配布物等を通じて「心の教育」を行う。 ウ 昨年度に取り組んだ新しい校章への変更を行う。	ア 学校行事として実施学年以外で80%以上が認識しているか。 イ 式・行事について全校生徒の50%以上が「心の教育」を実感しているかどうか。 ウ 年度当初から新しい校章に変更する。	ア 3年生が金光教本部参拝をして3年目になるが、1・2年の73%以上の生徒が認識していた。昨年度より若干増えたが来年は80%以上を目指したい。 イ 全校生徒の48%の認識にとどまった。今後は事前教育や式辞・挨拶の内容をホームページ等でタイムリーにわかりやすく知らせるようにしたい。 ウ 金光三校の統一性と本校の独自性を表した新しい校章に変更した。
教育内容の充実改善〔コース検証・学力向上・生徒指導・進路指導〕	(1)コース内容の検証 ア 文理特進A・B イ メディアアートコース ウ ライフクリエイティブコース エ トップアスリートコース (2)基本的学力の向上 ア 全生徒への基礎基本の徹底 イ 学習意欲のある生徒へ特別対応 ウ 研究授業の実施 エ 生徒の授業評価	(1)コース内容の検証 ア 文理特進A・Bの志願者減を検証し、名称イメージ先行を改め、内容の充実を図る。 イ メディアライセンスの志願者減を検証する。アートアニメーションの内容を充実させる。 ウ ライフクリエイティブのスペシャリティーとディスカバリーをスムーズに始動させる。 エ 6強化クラブの安定と次年度募集の強化を図る。 (2)基本的学力の向上 ア 基礎学力指導(HR)や学習方法の充実・工夫に力を入れる。 イ 外部機関や人材を活用した学習場を質量ともに拡充する。 ウ 授業改善や授業力向上に向けて研究授業等に取り組む。 エ 生徒による授業評価を授業改善に活かす。	ア 中学・生徒に受け止めやすい名称にして、内容の充実を図る。 イ メディアライセンスとアートアニメーションの特色を強化し、生徒募集につなげる。 ウ ライフクリエイティブコースの改編を成功させる。 エ 6強化クラブの戦績アップと次年度募集の成功。 ア 7校時に設定した「学びたいむ」、リクルートのスタディサプリの利用に関しての生徒たちが基礎学力向上の効果の実感を70%以上感じているかどうか。 イ 塾講師の特別講習、藤蔭塾(放課後の自学自習サポート教室)を定着させ満足度70%以上を目標にする。 ウ 教諭・常勤講師の中で各教科1名が研究授業を実施する。公開授業を年間2回の期間を設けて実施する。 エ 教諭・常勤講師全員が生徒による授業評価を年間1回実施して分析する。	ア 文理特進Bコースを新たに中学時不登校だった生徒を対象とした「エンカレッジコース」として「学びなおし」をテーマに立ち上げる準備を進めた。また文理特進は2年生が文系・理系に分かれての特化した授業を実施した。 イ アートアニメーションクラスは大阪アニメーションカレッジ専門学校の協力により充実した授業が展開できた。平成29年度には「アートアニメーションコース」として独立させ、同時にメディアライセンスクラスも「ITライセンスコース」として復活させる準備を進めた。 ウ 平成29年度2年次よりスペシャリティークラスを編成するにあたり、協力校である辻学園、NRB日本理美容専門学校との連携を強めた。 エ トップアスリートコースは、近畿大会に平成27年度は4回、28年度は5回出場している。さらにラグビー部はブロック内での戦績がベスト8からベスト4へと上昇している。1・2年生が2クラス編成となり、29年度の募集も安定が見込まれる。 ア 「(先生は)基礎力充実のために授業やHRに力を入れている」と答えた生徒が63%と前年度の58%より増えた。基礎学力向上のための「学びたいむ」を校時に設定することによって、継続的な取り組みができた結果である。生徒のレベルに応じた教材や小テストを学年ごとに作成し、特に3年生では90%を超える生徒が前向きに取り組めたと実感している。今後生徒が学習のモチベーションを上げ、達成感を感じるような教材の選定、授業の進め方を改善したい。 イ 放課後に実施した特別講習を受講した生徒の全員がその内容に満足している。また自学自習サポート教室の藤蔭塾も大学生のアシスタントを起用したことで生徒たちの学習意欲を喚起した。 ウ 公開授業・研究授業の実施後各教科で検証し、授業改善につなげた。今後も継続していきたい。 エ 授業評価が授業改善につながっているとの生徒の認識は52%にとどまった。アンケート結果を教科内で共有し、教員一人一人の課題克服につなげていきたい。
	(3)生徒指導の充実 ア 生活・学習習慣の確立 イ 人権侵害事象の根絶 ウ 挨拶の徹底	(3)生徒指導の充実 ア 生活習慣の確立や、自尊感情の醸成に力を入れて、転退学者数の改善を継続して行う。「3年間お預かりする」「社会のよき構成員として世に送り出す」という使命感を大切に イ 生徒間の人権侵害事象は起こさない。 ウ 登下校時、授業開始・終了時の挨拶習慣化とともに、外来者に対する挨拶を励行。	ア 転退学者を昨年度の45名から28年度は40名未満に改善する イ 人権侵害事象はゼロを目指す。 ウ きっちり挨拶する生徒を80%以上にする。	ア 前年度転退学者が45名(転学13名退学32名)から53名(転学25名退学28名)と若干増加した。不登校を含む学校生活学業不適応や進路変更が50%を超えている。本校の入学生が多くが中学時に家庭的、経済的に多くの課題を抱えている背景があることは否めない。アンケートで「生徒の悩みに先生が丁寧に対応できているか」という質問には69%の生徒が肯定しているが、欠席や転退学を減らすためにも、よりきめ細かな生徒への対応に努めたい。 イ 人権侵害事象はなかった。 ウ 73%の生徒がきっちり挨拶できていると答えている。決して満足いく数字ではないのでさらに徹底させたい。

	(4)進路指導の充実 ア 進学実績の向上 イ 望む職業への就労実現	(4)進路指導の充実 ア 大学・短大・専門系学校への進学実績の向上 イ 公務員試験対策の講座を実施する。 ウ 卒業段階での未進学者・未就労者の数を減らす。	ア 四年制大学進学率を前年度よりアップさせる。 ア 大学・短大・専門系学校全体の進学者も前年度よりアップさせる。 イ 公務員試験対策講座を実施、合格者を出す。 ウ 未進学・未就労率を前年度より減らす。	ア 平成27年度四年制大学進学率が33.0%であった。28年度は32.1%とわずかに減少したが、全体の進学率は67.5%から71.7%へアップした。最後まであきらめずに努力する生徒への進学指導を行った。 イ 公務員試験では1人が合格した。 ウ 進学・就職希望者の中で未進学・未就職率は進学で0.5%から0.8%、就職で0%から0.8%にと若干名増えた。しかし、進学・就職も希望しない生徒は2.5%から0%に減っている。今後も進路未決定者0を目指し、粘り強い指導を継続していきたい。
学校組織体制の改善	(1)学校組織の活性化	(1)学校組織の活性化 ア 組織的・機動的な学校体制の確立のために教科指導やクラブ指導には専門性、学年や分掌組織は組織力・機動力・実行力が必要である。それぞれが、それぞれの中で活発な業務活動を展開する。	ア 慎重な講師任用や適性を配慮した人事配置を行う。昨年度途中にスタートさせた分掌組織を活発に機能させる。	ア 教職員の適性・能力に応じた校内人事や校内分掌が行われているかについて、概ね63%の教職員が肯定している。 平成27年度に分掌・委員会の統合・再編がなされ、教務学事系4部、総務企画系3部の計7部がそれぞれに機能し、連携を取り合って円滑に業務を進めた。
	(2)組織と業務を通じた人材育成	(2)組織と業務を通じた人材育成 ア 管理職や分掌組織の組織的業務を通してミドルリーダーを育成する。 イ 学年部長・分掌部長等を活かして、課題解決型の業務を通してOJTで育てる。	ア 管理職や校務運営委員会メンバーを含めてミドルリーダーの層を厚くする取り組みを行う。 イ 校内研修や具体的な事例をもとにした問題解決型の業務を実践させる。	ア 上記のように7部に発展することでラインの仕事を意識させる分掌長、副分掌長が増加した。 イ 新任を含めた常勤講師には授業や生徒指導、学校業務に関する細かい指導を行った。特にミドルリーダーには重要な学校課題を提示して、課題発掘・解決型の業務を実践させた。教員の73%がその取り組みを認識している。
広報募集活動の充実強化	(1)広報募集の強化 ア 組織的な広報展開 イ 外部広報のアピールアップ ウ 入学生徒の確保	(1)広報募集の強化 ア 入試広報部職員の組織的な広報展開 イ 外部広報のアピールアップ ウ コース編成や名称を検証改善して中学・生徒に受け止めやすい名称や内容にする。 ホームページや学校案内・冊子等をわかりやすい表現に改善する。 ウ 入学生徒の確保 平成29年度入学者を増やす。本校を対象とする生徒層に対して本校の「崇高な法人理念」と「良質な教育内容」で3年間育て上げるということで、外部評価を得る。	ア 昨年度途中にスタートさせた入試広報部の組織活動を機能させる。中学校長経験者4名と事務職員1名を含めた入試広報部が人材を活かした広報展開を行う。 イ 利用しやすいホームページ、わかりやすい学校案内に刷新する ウ 平成29年度入学者を目標340名として、最低でも300名を上回る。	ア 中学生・保護者対象のオープンスクールを3回、入試説明会を4回実施、学校紹介、各コースの体験授業にも改良を加え、平成27年度より参加者は1.5倍に増えた。 イ 進学コースの「文理特進」の名称に受験生がハードルの高さを感じていることから名称を「文理進学」と変更することを検討した。メディアアートコースの名称はコースの内容が分かりにくいことから「アートアニメーションコース」と従来の「ITライセンスコース」に独立させたことで特色を明確に打ち出し、生徒確保を狙った。平成29年度は、新たに「エンカレッジコース」を加えた6コースとし、それぞれの特色を積極的にアピールし、生徒募集につなげた。 ウ ホームページ、学校案内ともに業者を複数社から選定し、中学生や保護者にわかりやすい内容やデザインにするための準備を進めた。 平成28年度入学生は282名と前年度より減少したが、平成29年度入学生は297名と持ち直した。来年度は教育内容の充実を図り、入学者増に努めたい。
	次の十年を見据えた学校風土の醸成	(1)創立90周年記念事業の実施	(1)創立90周年記念事業の実施 ア 創立90周年記念事業を計画に沿って順調に実施する。 イ 創立90周年記念事業の取り組みを通して10年先に向けて連帯する学校風土を醸成する。	ア 記念誌、式典(物故慰霊祭・記念式典・祝賀会)、記念事業に各パートチームが中心になって学校全体で取り組む。 イ 外部関係者への周知・依頼を正確に行う。 イ 取り組みを通して学校の一体感を醸成する。